

研究課題	支援を要する生徒の英語学習における読み書き困難に対する母語の影響と評価に関する研究		
氏名	村山 拓	所属	総合教育科学系 特別支援科学講座
		職名	准教授
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 ☒ ←受講済の場合はチェックをすること			
【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度） 本研究では、ディスレクシア及びその疑いのある生徒の英語学習における困難の評価と、指導上の対応の特徴に焦点を当てた。先行研究では、語の透明性などにより、日本語と英語によるディスレクシアの現れ方の相違も指摘されており、音から文字への指導方法の仕方にも違いがあると考えられるが、指導実践への結びつきが弱いと指摘されている。また、学校での外国語学習で潜在的にリスクのある子どもについて、「母国語の学習に困難を持っている子どもは学校で外国語を学習する際にも困難を伴う」こと、「多くの子どもは新しい言語体系を学習することに困難を覚えている」こと、「学習障害やディスレクシアを持つ子どもも持たない子どもも外国語学習では似通った困難を示すことなどが指摘されている（The International Dyslexia Association 2006）。そこで本研究では、中学生に対して、英単語や語の認知、想起を求める調査を実施し、その誤答や語の想起課題におけるの困難を分類し、母語（日本語）干渉との関連について検討を行った。 中学生に対して URAWSS-English (URAWSS-English, Vocabulary Understanding Reading and Writing Skills of Schoolchildren- English Vocabulary、村田ほか 2017) や LDI-R (Learning Disabilities Inventory-Revised、上野ほか 2008) の調査票を用いて、英単語の想起や筆記等の誤答やつまずきの評価、書字の困難さの評価等を通して、英語の読み書きの困難の内容や種類を調査した。 設問の英単語から、意味の対応する日本語を解答する課題の誤答を検討したところ、「発音もしくは綴りの似ている単語との誤り」、「意味の類似している単語との誤り」、「意味の関連している語との混同による誤り」、「正答との関連性が不明な誤り」の4つに大別することができた。「発音もしくは綴りの似ている単語との誤り」の場合、Listen (リッスン) と Lesson (レッスン) のように単語の発音の一部または綴りの一部が類似している例、とりわけ頭文字のみが正答と共通し、単語の中盤から後半にかけての綴りは正答と全く異なるケースが多くみられた。また、設問の読み上げによる介入において正答数を伸ばしている生徒もいることから、英単語を音によって認知し、日本語での意味とも結び付けている場合でも、音とアルファベットを結び付けられないため、正答を導き出せないケースが多いことも推測された。ローマ字のルールで綴る音韻性錯書が非常に多く、使用するアルファベットは正しいが“girl”を“gril”など視覚性錯書が見られるなどと特徴が見いだされた。 また、設問の日本語から、意味の対応する英単語を解答する課題については、前掲調査票の指示により、カタカナでの解答も認められているが、「読む」とことと「聞く」頻度の高い日常生活に関わる身近な語の場合は正しい綴りで書ける生徒が多いこと、カタカナによる解答を含めて検討すると、正しい綴りで書くことはできなくても、日本語に対応する英単語を音で理解していること、そしてその音を自分でも発音（再現）することができるケースが多いことなどが確認された。 解答傾向からは、音韻とつづり字を対応させることにつまずいている可能性が示された。このことから、発音の違いに注意を向け、単語がどの音から構成されているか正しく認識できるようになる必要があると考えられたことから、聴覚活用に基づく指導法が有効である可能性があること、音を文字へ変換できないことに起因する困難にはフォニックスによる指導で音と文字の繋がりを明示的に習得できるような指導が有効であると考えられる。また、本研究で用いた音韻とつづり字の関連に基づく誤答分類では、意味領域による分類に依らない誤答の析出に一定の効果があると考えられるが、意味の連関（例えば Student と Study）による誤答パターンの析出に課題が残った。これらを組み合わせることで、英単語学習の誤答と合理的配慮の方策の関連をより具体的にすることが必要である。			
【研究成果発表方法】 研究の経過及び成果の一部を以下の形で発表した。村山拓・澤井亜美・近藤美和（2020）「英語学習における読み書き困難の特徴—音韻と綴りの対応に注目した検討—」、令和2年度日本教育大学研究集会発表資料集、pp.222-225。近藤美和・澤井亜美・村山拓（2021）「英単語学習における読み書き・スペリングの習得の困難に関する検討」、東京学芸大学紀要 総合教育科学系第72集、pp.209-216。今後、言語文化教育研究学会誌、IAFOR Journal of Language Learning 及び本学紀要第73集への投稿を予定している。			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。